



卒業生講演会

昨日の4人の話は、それぞれ個性的で面白かったが、●●くんが言っていたように、それぞれ自己の体験を語ってくれたわけだから、話のすべてをそのまま受け取るのではなく、その中から自分自身の課題と重なる部分を見つけて（自己分析！）、それを改善するヒントとして生かしてほしいと思う。

しかし、だいたい4人の話のポイントは、最初に話してくれた●●くんの3つの柱と重なっていて、それをそれぞれが具体化してくれた感じだったのではないかと思う。●●くんの3つの柱は、

- 1 勉強スタイルの確立
- 2 自己分析・志望校分析
- 3 モチベーションの維持

1については、例えば●●さんは家での朝型の勉強を紹介し、さらに通学時間の活用についても触れていた。また、分からない箇所の質問や添削指導などで、先生方を徹底的に「活用する」ことを勧めていた。●●さんも分からない箇所はすぐに先生や友だちに聞くことにしたと言っていたし、「定期考査を大切に」という話も、41位が最低だったという「実績」があるだけに、説得力があるといえるだろう。●●くんも、基本の勉強は「小テスト」「予習・復習」「定期考査」だと話していた。つまり、塾を活用するにしても、まずは学校で与えられた課題をこなさないという意味はないということだろうし、学校で与えられた課題を（先生などを活用しながら）着実にこなせば、他に何か特別なことをしなくても、現役合格という結果に結びついていくと言うことでもあるだろう。●●さんは勉強時

間をメモして、つまり「見える化」して励みにしていたとも言っていた。夏休み前に、勉強時間を塗りつぶす表を配布したが、実は「9月用を下さい」と言ってすでに持っていった人が二人いる。勉強時間の「見える化」が励みになることに気づいたのであろう。必要は人は差し上げるので、申し出ること。

2については、●●くんの一言がすべてを語っていた。つまり、「分析だけでなく、それを実行することが大切」ということだ。

なお、志望校分析については、夏休み前に志望大学のセンター試験科目＋二次試験科目を調べる紙を渡したが、科目選択に向けてちゃんとやっておくこと。今は大学ごとに受験科目も異なっており、例えば一橋大学などは、学部ごとに二次科目が異なったり、配点が異なったりするから、担任がすべてを知った上でアドバイスするなどと言うことは不可能である。まずは自分でしっかり調べ、それで疑問点がわいたりしたら担任に相談する…といったスタンスで取り組んでほしい。

3については、4人とも共通で、部活や行事をやっているからこそ、勉強の時間が充実したということをやっていた。U田先生もおっしゃっている「メリハリ」である。この点からも、自分の日常を振り返ってほしい。

●●さんは、「受験勉強ができない人は大学での勉強もできない」と言っていた。受験勉強は「大学に入るためのもの」と思いがちだが、実はそれに続く4年間（6年間～？）の学生生活を有意義にするためのものでもある。そのことを忘れずに努力しよう。